

言語障がい

言語障がいは、失語症と構音障がいがあります。

失語症は、脳梗塞、脳卒中や脳腫瘍などにより、脳の一部分が傷ついたために言葉がうまく使えない状態をいいます。失語症は、聞いて理解することはできますが、話すことがうまくできず、ぎこちない話し方になる場合や、なめらかに話せるものの言い間違いが多く、聞いて理解することも困難になる場合などがあります。さらに、全ての言語機能に重度の障がいの起きる「全失語」などもあります。

構音障がいは、会話の内容に問題はありませんが、何らかの原因により発音が正しくできない状態のことをいいます。ろれつが回らない人や、食べ物を噛んだり、飲み込んだりすることが難しい人もいます。

困っていることを理解しましょう

失語症は、話すことだけでなく、「聞く」「読む」「書く」ことも難しくなります。

構音障がいのある人は、発音が不明瞭となり、なかなか聞き取ってもらえないことがあります。

こんなことに配慮しましょう

失語症の人には表情がわかるよう、顔を見ながら、ゆっくりと短いことばや文章でわかりやすく話しかけましょう。一度でうまく伝わらない時は、繰り返して言ったり、別のことばに言い換えたり、文字や絵で書いたり、写真・実物・ジェスチャーで示したりすると理解しやすくなります。「はい」「いいえ」で答えられるように問い合わせると答えやすくなります。話し言葉以外の手段(カレンダー、地図、時計など身近にあるもの)を用いると、コミュニケーションの助けとなります。

構音障がいのある人には、わかったふりをせず、相手の言っていることの傾聴に努めましょう。どうしても聞き取れない場合や、発語が困難な場合は、相手の了承を取ったうえで、筆談などでコミュニケーションをとることができます。



言語に障がいのある人は、言葉がうまく出てこないことがあるので、その人のペースに合わせて、優しく接しましょう。プレッシャーを与えてしまうと、コミュニケーションに対して意欲を失ってしまうことがあります。

音声コード

